



第21回

俳句甲子園



(全国高等学校俳句選手権大会)

実施報告書

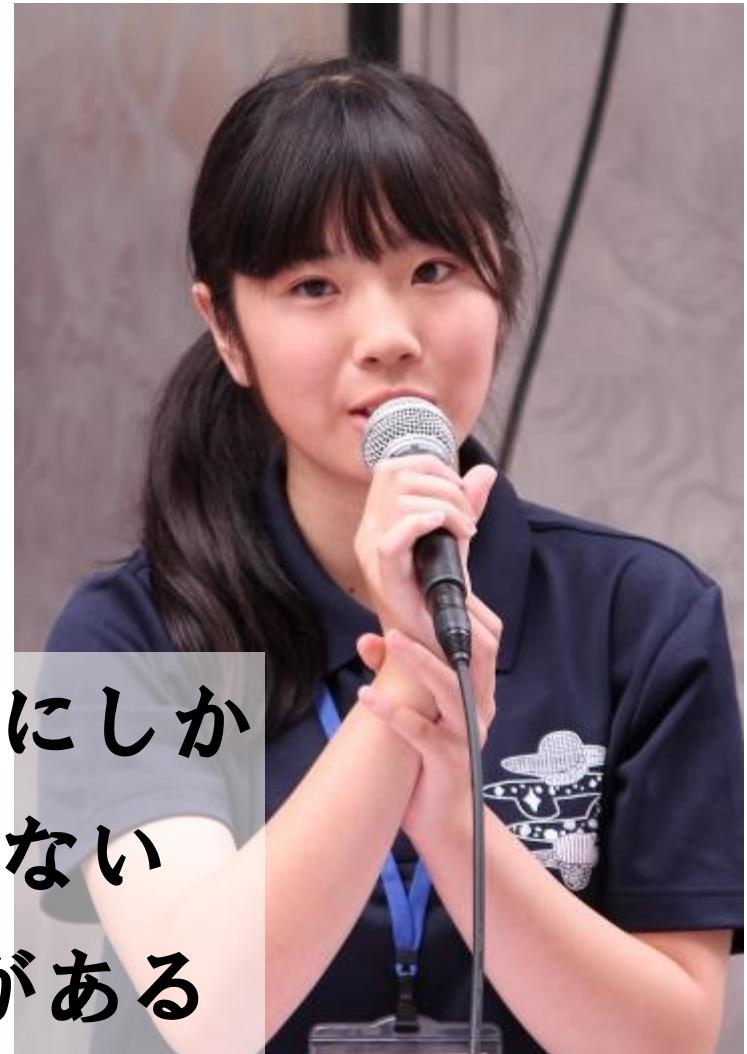
主催:NPO法人俳句甲子園実行委員会 共催:松山市、愛媛県

後援:文部科学省、(公社)全国高等学校文化連盟 ほか

【大会最優秀句・文部科学大臣賞】

滴りや方舟に似てあなたの手





高校生にしか 語れない 俳句がある

<俳句甲子園の目的>

全国各地から俳句という文学を介して高校生たちが松山に集い、日本語を操る能力の向上、将来的な日本俳句文学の興隆のみならず、高校生相互の文化的交流、更には大会に関わる異世代との社会的交流を深め、豊かな人間性を育むことを目的としています。

<開催趣旨>

誰でもふと口ずさむことができ、フランス人に「生きる芸術」と呼ばれた俳句。P. ピカソが「広々とした自由」と呼んだ俳句。現在全国の俳句愛好者は500万人を超える、いまや「俳句の時代」といわれるほど、この小さな詩形は、日本人の日々の暮らしに溶け込んでいます。とりわけ愛媛県では、近世から階層を問わずあらゆる分野の人々が俳諧に親しんできました。中世には神仏に捧げる法楽連歌が多く残されており、明治以降には俳句を近代の詩として再生させた正岡子規をはじめとして、高浜虚子、河東碧梧桐、中村草田男、石田波郷、芝不器男、富沢赤黄男など、さまざまな個性に彩られ

た俳人を輩出した伝統的風土があります。

俳句は、現代を生きる人々の心をく五・七・五>という十七音に凝縮されたわずかな言葉の空間に解き放ち、またひとつの作品が読者との間にさまざまな読み方の回路を開き、いろいろに読むことができるという自在な活力にも満ちています。各地から俳句に親しむ高校生が一堂に参集し、俳句を楽しみ、交流することは、本来「座」に集う人々の共同の文芸であった俳句に相応しく、そこから生まれる人間的な交流は、高校生にとって国語教育の一環としてのみならず、新鮮で貴重な社会的経験となり、豊かな人間性を育むであろうと考えます。

また、次代を担う若者たちの新鮮な発想と創造性、しなやかで軽やかな感受性は、この小さな詩の未知の魅力を我々の前に開いてくれることでしょう。

以上のように<俳句甲子園>は俳句を通じ地域間・世代間の交流と若者の文化活動の活性化に必ず寄与するものと考えます。

(1997年当時作成)

<大会運営>

大会の運営はNPO法人を中心としながら、大会を卒業したOBOGや市民で構成される150名以上のボランティア、地元松山市の職員が連携しながら実施します。また文部科学省や、全国高等学校文化連盟などの後援もいただき、高校生の良き学びの場、新たな交流や成長の場となるよう配慮した運営をしています。

<大会スケジュール>

6月に地方大会、8月に全国大会を行います。参加可能な地方大会会場が近くに無い場合等は投句審査（句のみの書類選考）にてエントリーする事も可能です。

<21回大会日程>

1月10日…「大会募集要項」「開催要綱」発表
4月5日…地方大会兼題 発表
5月10日…エントリー締め切り
6月9日～17日…地方大会
(全国16都市26会場)
6月20日…全国大会出場チーム 発表
8月17日～19日…全国大会

◆大会1日目

ウェルカムパーティー、組合せ抽選、
敗者復活戦兼題発表・提出

◆大会2日目

予選リーグ、予選トーナメント

◆大会3日目

敗者復活戦、決勝リーグ、決勝戦、表彰式、
フェアウェルパーティー

<兼題>

◆地方大会

「蛙」「春眠」「桜の実」「蜜豆」

◆全国大会

予選リーグ第1・2試合「草笛」

予選リーグ第3・4試合「蛇」

予選リーグ第5・6試合「胡瓜」

予選トーナメント「滴り」

敗者復活戦「水鉄砲」

決勝リーグ第1試合「残暑」

決勝リーグ第2試合「草の花」

決勝リーグ第3試合「鳴」

決勝戦「清」

<審査員長>

高野 ムツオ（小熊座主宰）／西村 和子（知音代表）／中原 道夫（銀化主宰）／正木 ゆう子（紫薇同人）／星野 高士（玉藻主宰）／小澤 實（澤主宰）／夏井 いつき（いつき組組長）／岸本 尚毅（天為、秀）／関 悅史（翻車魚）／鴇田 智哉（オルガン）／阪 西 敦子（ホトトギス、円虹）／高柳 克弘（鷹編集長）／神野 紗希（現代俳句協会青年部長）

<ウェルカムパーティー>

俳都松山に到着した選手たちを歓迎するウェルカムパーティーを松山大学で開催しました。審査委員長と共にみかんジュースで乾杯。組合せ抽選を行いました。歓談後は敗者復活戦の兼題「水鉄砲」が発表され、俳句を提出しました。戦いはもう始まっています。



<エントリーチーム>

40都道府県110校143チームからのエントリーがあり、20都道府県30校32チームが 全国大会へ出場しました(うち5校5チームが全国大会初出場)。

都道府県名	チーム名	エントリー回数	参加区分・会場
北海道	北海道小樽潮陵高等学校	5	投句
	北海道旭川東高等学校A・B	16	投句
岩手県	盛岡中央高等学校A・B	7	地方大会・北上会場
	岩手県立盛岡第一高等学校	7	地方大会・北上会場
	岩手県立水沢高等学校A・B (Aチーム ◎、Bチーム ★)	14	地方大会・北上会場
宮城県	宮城県小牛田農林高等学校	11	地方大会・仙台会場
	仙台白百合学園高等学校	12	地方大会・仙台会場
秋田県	秋田県立秋田西高等学校 ★	6	地方大会・仙台会場
山形県	山形県立山形南高等学校A・B (Bチーム ★)	2	地方大会・仙台会場
	山形県立酒田西高等学校	2	地方大会・仙台会場
	山形県立山形西高等学校	2	地方大会・仙台会場
	山形市立商業高等学校	初	投句
福島県	福島県立会津高等学校A・B (Aチーム ★)	2	地方大会・郡山会場
	福島県立磐城高等学校	5	地方大会・郡山会場
	福島県立郡山商業高等学校	3	投句
茨城県	茨城県立下妻第一高等学校	4	地方大会・郡山会場
	茨城県立並木中等教育学校	3	地方大会・東京会場
	茨城県立結城第二高等学校 ★	7	地方大会・前橋会場
群馬県	群馬県立高崎高等学校	初	地方大会・前橋会場
	高崎商科大学附属高等学校A・B	4	地方大会・前橋会場
	群馬県立太田高等学校	6	地方大会・前橋会場
埼玉県	盈進学園東野高等学校	7	地方大会・東京会場
	星野高等学校	2	地方大会・前橋会場
千葉県	千葉県立千葉東高等学校	3	地方大会・東京会場
	千葉県立幕張総合高等学校A・B	2	地方大会・東京会場
東京都	海城高等学校A・B (Bチーム ★)	5	地方大会・東京会場
	開成高等学校A・B (Aチーム ◎)	18	地方大会・東京会場
	立教池袋高等学校A・B (Aチーム ★)	8	地方大会・東京会場
	吉祥女子高等学校	6	投句
	穎明館高等学校	初	投句
神奈川県	神奈川県立横浜翠嵐高等学校 ★	2	地方大会・横浜会場
	神奈川県立津久井高等学校	5	地方大会・横浜会場
	慶應義塾湘南藤沢高等部	6	地方大会・横浜会場
	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	5	地方大会・横浜会場
新潟県	新潟県立巻高等学校	11	地方大会・前橋会場
富山県	富山県立高岡南高等学校	2	投句
	富山県立中央農業高等学校	2	投句
石川県	石川県立金沢桜丘高等学校	5	投句
	石川県立金沢錦丘高等学校	4	投句
長野県	長野県屋代高等学校 ★	5	地方大会・前橋会場
	長野清泉女学院高等学校	2	投句
岐阜県	岐阜県立大垣商業高等学校	5	地方大会・大垣会場
	聖マリア女学院高等学校	5	地方大会・大垣会場
	岐阜県立多治見高等学校	4	地方大会・大垣会場
	岐阜県立飛騨神岡高等学校 ★	13	地方大会・大垣会場
静岡県	静岡県立浜名高等学校	3	地方大会・名古屋会場
愛知県	愛知県立豊橋西高等学校A・B	3	地方大会・名古屋会場
	名古屋高等学校A・B・C・D (Aチーム ◎)	7	地方大会・名古屋会場
	愛知県立幸田高等学校A・B (Aチーム ★)	17	地方大会・名古屋会場
	愛知県立岡崎東高等学校 ★	3	地方大会・名古屋会場
三重県	三重県立宇治山田高等学校	11	地方大会・大垣会場
	高田高等学校	16	地方大会・大垣会場
滋賀県	滋賀県立瀬田工業高等学校	2	地方大会・彦根会場
	近江兄弟社高等学校	2	地方大会・彦根会場
	滋賀県立八日市高等学校	2	地方大会・彦根会場
	滋賀県立大津高等学校	2	地方大会・彦根会場
	滋賀県立彦根東高等学校	2	地方大会・彦根会場

(★は地方大会優勝、◎は投句審査による全国大会出場チーム)

都道府県名	チーム名	エントリー回数	参加区分・会場
京都府	洛南高等学校A・B (A・Bチーム ★)	16	地方大会・彦根会場
大阪府	大阪桐蔭高等学校A・B	3	地方大会・彦根会場
兵庫県	甲南高等学校	14	地方大会・和歌山会場
	灘高等学校	5	地方大会・和歌山会場
和歌山県	和歌山県立桐蔭高等学校	3	地方大会・和歌山会場
	和歌山県立海南高等学校A・B	2	地方大会・和歌山会場
	和歌山県立向陽高等学校 ★	3	地方大会・和歌山会場
鳥取県	倉吉北高等学校	初	投句
	鳥取県立米子工業高等学校	初	投句
島根県	島根県立三刀屋高等学校 ★	4	地方大会・出雲会場
	島根県立平田高等学校A・B	4	地方大会・出雲会場
岡山県	就実高等学校	11	地方大会・岡山会場
	岡山県立岡山朝日高等学校 ★	8	地方大会・岡山会場
広島県	広島県立広島高等学校	8	地方大会・出雲会場
山口県	山口県立柳井商工高等学校A・B (Bチーム ★)	2	地方大会・防府会場
	山口県立西京高等学校	5	地方大会・防府会場
	山口県立徳山高等学校 ★	5	地方大会・防府会場
	山口県立熊毛南高等学校A・B	4	地方大会・防府会場
	山口県立高森高等学校A・B	初	A:投句、B:地方大会・防府会場
	山口県立萩高等学校A・B	初	投句
徳島県	徳島県立脇町高等学校	2	投句
愛媛県	愛媛県立宇和島東高等学校A・B (Aチーム ★)	16	地方大会・松山会場
	愛媛県立東予高等学校	5	地方大会・松山会場
	愛光高等学校 ◎	14	地方大会・松山会場
	愛媛県立松山東高等学校	20	地方大会・松山会場
	済美平成中等教育学校 ★	14	地方大会・松山会場
	愛媛県立松山西中等教育学校A・B	10	地方大会・松山会場
	聖カタリナ学園高等学校 ★	3	地方大会・松山会場
	済美高等学校	12	地方大会・松山会場
	愛媛県立弓削高等学校A・B	12	地方大会・松山会場
	新田青雲中等教育学校A・B	6	地方大会・松山会場
	愛媛県立新居浜西高等学校A・B	7	A:地方大会・松山会場、B:投句
	愛媛県立今治西高等学校A・B (Aチーム ◎)	13	地方大会・松山会場
	愛媛県立松山中央高等学校	13	地方大会・松山会場
	愛媛県立伯方高等学校A・B (Aチーム ★)	19	地方大会・松山会場
高知県	土佐高等学校	5	地方大会・岡山会場
	高知学芸高等学校A・B	初	地方大会・岡山会場
福岡県	福岡県立三井高等学校	7	地方大会・福岡会場
	博多高等学校	5	地方大会・福岡会場
	福岡県立明善高等学校	6	地方大会・福岡会場
	福岡県立筑紫丘高等学校 ★	7	地方大会・福岡会場
	福岡雙葉高等学校A・B	7	地方大会・福岡会場
長崎県	長崎県立佐世保東翔高等学校	2	投句
熊本県	熊本信愛女学院高等学校 ★	18	地方大会・福岡会場
大分県	大分県立大分上野丘高等学校	2	投句
宮崎県	宮崎県立宮崎商業高等学校	3	投句
	宮崎県立宮崎西高等学校A・B (Aチーム ◎)	4	投句
鹿児島県	鹿児島県立鹿児島南高等学校	2	投句
沖縄県	沖縄県立首里高等学校	11	地方大会・那覇会場
	昭和薬科大学附属高等学校	2	投句
	沖縄県立那覇西高等学校	3	地方大会・那覇会場
	沖縄県立浦添高等学校	12	地方大会・那覇会場
	興南高等学校 ★	3	地方大会・那覇会場

全国大会



岩手県立水沢高等学校A
(岩手県)



岩手県立水沢高等学校B
(岩手県)



秋田県立秋田西高等学校
(秋田県)



山形県立山形南高等学校
(山形県)



神奈川県立横浜翠嵐高等学校
(神奈川県)



茨城県立結城第二高等学校
(茨城県)



長野県立屋代高等学校
(長野県)



愛知県立幸田高等学校
(愛知県)



洛南高等学校B
(京都府)



和歌山県立向陽高等学校
(和歌山県)



島根県立三刀屋高等学校
(島根県)



岡山県立岡山朝日高等学校
(岡山県)



愛媛県立伯方高等学校
(愛媛県)



済美平成中等教育学校
(愛媛県)



愛光高等学校
(愛媛県)



愛媛県立今治西高等学校
(愛媛県)



出場チーム一覧



福島県立会津高等学校
(福島県)



立教池袋高等学校
(東京都)



海城高等学校
(東京都)



開成高等学校
(東京都)



愛知県立岡崎東高等学校
(愛知県)



名古屋高等学校
(愛知県)



岐阜県立飛騨神岡高等学校
(岐阜県)



洛南高等学校A
(京都府)



山口県立柳井商工高等学校
(山口県)



山口県立徳山高等学校
(山口県)



愛媛県立宇和島東高等学校
(愛媛県)



聖カタリナ学園高等学校
(愛媛県)



福岡県立筑紫丘高等学校
(福岡県)



熊本信愛女学院高等学校
(熊本県)



宮崎県立宮崎西高等学校
(宮崎県)



興南高等学校
(沖縄県)

OBOG会

俳句甲子園経験者の有志によりOBOG会が結成され、俳句甲子園を支えてくれています。地方大会や全国大会は、大勢のOBOGのボランティアスタッフが運営に携わり、この報告書にも彼らが撮影した写真が多く使われています。

毎年多くのOBOGが「俳句甲子園をもっと盛り上げていこう」、「俳句甲子園に恩返しを」など、様々な想いで応援してくれています。



予選リーグ、 予選トーナメント



自分たちの句の大好きなところを届けよう

予選トーナメント



くちなわや電灯のない下足穴

ロック
大一ガス株式会社
蛇子園
兼題
用文化振興財団助成事業
実行委員会

内波曳船株式会社
かわい俱乐部

ためらわず蛇の首取る祖母の腕



<予選リーグ、予選トーナメント>

約480mの大街道商店街アーケードに8の特設ブロック会場が設けられます。参加32チームが1ブロック4チームに分かれ、決勝リーグ進出をかけ火花を散らせます。

相手の俳句のポイントを的確に見抜き、鑑賞し、質問する言葉の応酬。言葉と言葉の真剣勝負に道行く人は思わず魅了され、立ち止まります。審査員の旗が上がり勝敗が決まるたびに、会場では拍手や歓声があがります。

<評価の基準>

◆作品点（10点満点）

各審査員が、提出句ごとに10点満点で俳句の創作力を総合的に評価します。



**俳句に誘ってくれた
仲間がいなければ
今の僕はない**



◆鑑賞点（2点以内）

各審査員が、対戦ごとに質疑応答を審査して、各チームの総合鑑賞力を評価し、鑑賞力の上まわるチームにのみ2点以内の点数を付与します。

◆合計ポイントが同じ場合

原則として、作品点の高いチームの勝利となります。但し、同点でかつ、減点がある場合は、減点のない又は減点数の少ないチームの勝利となります。

＜競技の際の注意点＞

◆相互の鑑賞力を促進する為、対象句側のチームによる句の自発的な解説は認めません。

◆お互いに俳句という文学的フィールドの中で、協議対象句に対する個々の見識・感受性・創造力を競い合うことを目的とする対戦であり、決して作品・個人に対する中傷誹謗の場ではありません。



敗者復活戦・決勝リーグ



<敗者復活戦>

ウェルカムパーティー終了後に発表される兼題で、定められた時間内に、チームで1句創作し、事前に審査委員長13名が作品点上位5チームを選出します。ここに、1日目の予選トーナメントで敗れた4チームが加わり、計9チームが敗者復活戦に臨みます。敗者復活戦決勝戦は各チーム代表者2名が登壇、句を披露、審査委員長との質疑応答（1分）を行います。作品点と鑑賞点の合計で上位2チームを選出します。

今大会の兼題は夏の季語である「水鉄砲」で、「青空に満ち干ありけり水鉄砲」の名古屋高等学校が1位、「水鉄砲みずでっぽうの味の水」の海城高等学校が2位となり、決勝リーグへと駒を

決勝戦・表彰



進めました。

＜決勝リーグ・決勝＞

松山市総合コミュニティセンターでは、大型モニターによるパブリックビューイングが行われ、試合会場の外まで俳句甲子園の熱気に包まれます。

予選トーナメントを勝ち進んだ岡山県立岡山朝日高等学校、山口県立徳山高等学校、済美平成中等教育学校、開成高等学校と、敗者復活戦を勝ち抜けた名古屋高等学校、海城高等学校の6チームがぶつかります。決勝リーグは「残暑」「草の花」「鳴」を兼題として、Aブロック、Bブロックに分かれて、3校ずつが熱戦を繰り広げました。それぞれのブロックで勝ち抜いた山口県立徳山高等学校と開成高等学校が決勝戦に進みます。

「清」を兼題に戦った決勝は、山口県立徳山高等学校が3-2で開成高等学校を下し、初優勝を決めました。

<大会結果>

優勝：山口県立徳山高等学校（山口県）

準優勝：開成高等学校（東京都）

特別賞(決勝リーグ進出チーム)

名古屋高等学校（愛知県）

済美平成中等教育学校（愛媛県）

海城高等学校（東京都）

岡山県立岡山朝日高等学校（岡山県）

<フェアウェルパーティー>

今年のフェアウェルパーティーは、パブリックビューイングを実施した松山市総合コミュニティセンターのコミュニティプラザで開催しました。

熱戦を終えた選手たちを、OBOGが趣向を凝らした演出でもなします。2日前のウェルカムパーティーでは優勝を争うライバルだった他校の選手たちが、すっかり戦友になっています。

また、OBOGたちとも交流を深め、これから俳句活動についても考えを深める光景も見られました。最後には選手・OBOG皆で記念写真を撮り、全国大会を締めくくりました。

<審査員長評(抜粋)>

岸本 尚毅 先生

俳句の持っている潜在的な可能性を、詠みを通じて引き出すという面白さが、だんだんと広まってきたように思います。

俳句の詠みはある程度は禁欲的でないといけないと思います。つまり、俳句に書いてないことをいくら言ってもしょうがない。ただ一方で、潜在的な可能性をどこまで引き出すかという面もあって、そこのさじ加減がすごく難しいと思います。

俳句は17音ですごく短い文芸です。ですから、小説などの長いものと違って、その詠みの難しさと詠みのおもしろさというものが、ある意味では俳句の歴史的な宿命だと思っています。我々がその歴史的な宿命を負って、また来年に向かって勉強するわけです。作る技術ももちろん大事ですけれども、詠みの技術、どうやって詠むかあるいはどこまで詠まないかということも含めて検討していただけるといいと思います。

個人最優秀賞は「文部科学大臣賞」



<審査員長講評(抜粋)>

鶴田 智哉 先生

何か静かな期待だけがあるというような句。平成がそろそろ終わりますが、次はどんな時代が来るのだろう、どんな未来が来るのだろう、そんなことまで思いながらこの句を選びました。

滴りや方舟に似てあなたの手



最優秀賞（文部科学大臣賞）

滴りや方舟に似てあなたの手

興南高等学校

桃原 康平

ありをりはべりいまそがり秋暑し
傘立てに鍵落としたる残暑かな

茨城県立

馬場 梓乃

結城第二高等学校

平田 萌夏

福岡県立筑紫丘高等学校

茶屋 梢

開成高等学校

横内 毅

神奈川県立

野澤みのり

横浜翼嵐高等学校

塩崎達也

名古屋高等学校

平嶋 遙歌

熊本信愛女学院高等学校

中野 葵

岡山朝日高等学校

佐野ひより

愛知県立岡崎東高等学校

岡崎匠

岐阜県立

大熊光汰

飛騨神岡高等学校

濱本 藏人

宮崎県立宮崎西高等学校

江藤 奏子

山口県立徳山高等学校

神足 鳴人

秋田県立秋田西高等学校

佐藤なつみ

長野県屋代高等学校

井狩友吾

島根県立三刀屋高等学校

糸川修平

和歌山県立向陽高等学校

秀島由里子

<個人賞>

△優秀賞△

△滴りや億の微生物の祈り

岩手県立 水沢高等学校 B 軍司 彩里

立教池袋高等学校 加藤瑠

高橋 恵美彩

草の花摘むや自流の手のかたち

宇和島東高等学校

宇和島東高等学校 加藤瑠

雨匂う蛇の出てくる下水管

福岡県立 筑紫丘高等学校

福岡県立 筑紫丘高等学校 摂津梨央

草の花少年兵はよく笑う

愛媛県立

今治西高等学校

藤原豪士

草の花少年兵はよく笑う

愛媛県立

愛光高等学校

中井 望賀

黎明の静けさ蛇の腹白し

愛媛県立

愛光高等学校

板尾 真奈美

黎明の静けさ蛇の腹白し

愛媛県立

宇和島東高等学校

女子だつて油そば食う残暑かな

張りつめてゐる滴の宇宙かな

草笛の青々として息熱し

滴りの那由多を産みて孤峰なり

△入選△

清拭の後を祭の音が来る

名古屋高等学校

牛田 大貴

茨城県立

馬場 梓乃

結城第二高等学校

神奈川県立

横浜翼嵐高等学校

野澤みのり

名古屋高等学校

塩崎達也

熊本信愛女学院高等学校

平嶋 遙歌

岡山朝日高等学校

中野 葵

愛知県立岡崎東高等学校

佐野ひより

岐阜県立

岡崎匠

飛騨神岡高等学校

大熊光汰

宮崎県立宮崎西高等学校

濱本 藏人

山口県立徳山高等学校

江藤 奏子

秋田県立秋田西高等学校

佐藤なつみ

長野県屋代高等学校

井狩友吾

島根県立三刀屋高等学校

糸川修平

和歌山県立向陽高等学校

秀島由里子

滴りや億の微生物の祈り

草笛の青々として息熱し

滴りつめてゐる滴の宇宙かな

張りつめてゐる滴の宇宙かな

草笛の青々として息熱し

滴りの那由多を産みて孤峰なり



伝えたい思いを言葉にできる喜びを胸に
俳句を愛する仲間とともに

第22回大会へ

<お問い合わせ先>

NPO法人 俳句甲子園実行委員会 事務局

〒790-0814 愛媛県松山市味酒町1丁目10-2 ゴールドビル味酒3F

TEL: 089-943-1512 (平日13:00~17:00)

E-mail info@haikukoushien.com

又は 松山市総合政策部 文化・ことば課

〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2

TEL 089-948-6952 FAX 089-934-1287

E-mail bunkakotoba@city.matsuyama.ehime.jp